

「初任者等に対する校内での学び支援力向上プログラム」

調査の概要

◆課題認識

教員構成のアンバランス等の要因から

- ・校内における初任者指導が十分に行えない
- ・校内研修が活性化しない

◆調査研究の目的

初任者や経験の浅い者に対しての指導を通して、校内で初任者指導にあたる者の支援力向上を図ること。また、支援力向上のためのワークショップを開発すること。

◆調査研究の方法

- ・初任者への指導
- ・初任者に対する指導者育成プログラムの開発
- ・校内研修の活性化への核づくり

◆研究校

- ・和歌山県紀の川市立打田中学校
- ・和歌山県岩出市立岩出小学校・山崎北小学校
- ・和歌山県立和歌山さくら支援学校
- ・和歌山県立紀北支援学校

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

連携協力校5校に週1回訪問し、初任者等の経験の浅い者を指導するなかで、本学が開発した授業評価シートやカンファレンス実施方法を実施する。

②ポイントB

当該校の拠点校指導教員や若手教員を参加させることで、彼らが実践的に初任者等への指導内容・方法を習得し、校内における支援力向上を図る。

③ポイントC

指導内容・方法をプログラム化し、ワークショップ等を開催することで、初任者支援の人材育成を行う。

◆成果

- ・5校に計15名の初任者を配置し、大学からの訪問は、のべ147回実施
- ・「校内研修支援会」は、のべ15回実施
- ・12月7日に「初任者支援ための人材養成プログラム(仮)」のワークショップを実施し、40名参加
- ・連携協力校の教員等（校長・拠点校指導教員・校内指導教員：計29人）を対象にアンケート調査の実施。83%が「とても役立っている」、14%が「ある程度役立っている」と回答

今後の課題

◆「初任者支援ための人材養成プログラム(仮)」ワークショップの開発

- ・平成29年度にパイロットとして1回実施したが、これを3回程度の年間を通したワークショップとして完成する。